

日本超音波医学会 第60回東北地方会学術集会

日 時：令和2年9月13日（日） 8時50分～17時50分

場 所：Web開催

大 会 長：秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学 飯野 貴子

参 加 費：1,500円

参加登録期間：令和2年8月1日～令和2年9月10日

地方会 URL：<http://www.ecei.tohoku.ac.jp/~jsum/>

連絡先：〒010-8543 秋田市本道1-1-1

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学内

日本超音波医学会第60回東北地方会学術集会事務局

E-mail：jsum@ecei.tohoku.ac.jp

講演者へのお願い

【発表時間】

一般演題：1題につき発表時間6分、討論時間4分の合計10分間

症例報告：1題につき発表時間5分、討論時間3分の合計8分間

奨励賞審査セッション：1題につき発表時間8分、討論時間6分の合計14分間

【発表方法】

○一般講演

- ・発表者は、発表スライドにナレーション（音声）を入力したファイルを事前に事務局へお送りください。
- ・学会当日、事務局がその音声付発表スライドを再生します。
- ・質疑は、音声付発表スライドを再生後、Zoomウェビナーにてライブで行ってください。

○奨励賞

- ・学会当日、発表・質疑共に、Zoomウェビナーにてライブで行ってください。

座長へのお願い

- ・ご担当のセッション開始時刻の10分前までにご入室ください。
- ・入室後、事務局がパネリスト昇格を行いますので、Zoom機能「手をあげる」で入室をお知らせください。
- ・Zoom画面の名前を、所属・氏名に入力し直してください。
- ・セッション終了後は、事務局がパネリストから出席者に降格を行いますのでご了承ください。
- ・セッションの進行はお任せ致します。時間厳守での進行にご協力お願い致します。

上記発表時間に座長からの紹介も含みますのでご留意ください。

単位について

- ・筆頭者で発表された超音波専門医、工学フェローの方には15単位(共著者での発表には7.5単位)、筆頭者で発表された超音波検査士の方には5単位の研修・業績単位が与えられます。
- ・地方会学術集会に出席された超音波専門医、工学フェローの方には15単位、超音波検査士の方には5単位(2015年～2018年の各4月1日に認定された方)、10単位(2019年4月1日以降に認定された方)の研修・業績単位が与えられます。

日程表

| 第一会場 | 第二会場 |
|---|----------------------|
| 8:50-8:55 開会の挨拶 大会長 飯野 貴子 | |
| 9:00-9:45 第 22 回奨励賞審査セッション 座長 志村 浩己 (福島県立医科大学医学部臨床検査医学講座) 小玉 哲也 (東北大学大学院医工学研究科) | |
| 9:50-10:35 第 23 回奨励賞審査セッション 座長 志村 浩己 (福島県立医科大学医学部臨床検査医学講座) 小玉 哲也 (東北大学大学院医工学研究科) | |
| 10:40-11:15 消化器 I 座長 鈴木 克典 (山形県立中央病院消化器内科) 幕田 優子 (福島県立医科大学附属病院検査部) | 10:40-11:30 奨励賞選考委員会 |
| 11:15-11:55 血管・乳腺 座長 高瀬 圭 (東北大学大学院医学系研究科放射線診断学分野) 佐藤 和奏 (秋田大学大学院医学系研究科循環器内科学講座) | |
| 12:10-13:10 ランチョンセミナー 共催: 株式会社日立製作所 講師 泉 知里 (国立循環器病研究センター病院心不全科) 座長 渡邊 哲 (山形大学医学部附属病院第一内科) | 12:10-13:00 運営委員会 |
| 13:20-14:55 第 38 回講習会 講演 I 13:20-14:05 講師 岩野 弘幸 (北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学) 座長 大原 貴裕 (東北医科大学病院地域医療学/総合診療科) 講演 II 14:10-14:55 講師 後岡広太郎 (東北大学病院循環器内科) 座長 熊谷亜希子 (岩手医科大学医学部循環器内科学) | |
| 15:00-15:05 運営委員会からのお知らせ 15:05-15:10 奨励賞表彰式 奨励賞選考委員長 志村 浩己 | |
| 15:15-16:35 循環器 座長 山田 雅大 (弘前大学医学部附属病院循環器腎臓内科) 田村 晴敏 (山形大学医学部附属病院第一内科) | |
| 16:35-17:45 消化器 II 座長 虹江 誠 (宮城県立がんセンター消化器内科) 大山 葉子 (秋田厚生医療センター臨床検査科) | |
| 17:45-17:50 閉会の挨拶 東北地方会運営委員長 鈴木 真一 | |

1. 第 22 回奨励賞セッション 9:00-9:45

座長 福島県立医科大学医学部臨床医学講座 志村 浩己
東北大学大学院医工学研究科 小玉 哲也

59-5 【一般演題】 多周波位相差トラッキング法による心筋ストレインレート計測

小原 優 (東北大学大学院医工学研究科)

59-6 【一般演題】 音響放射力イメージングを用いた強力集束超音波加熱分布推定における組織依存性

谷畠 大貴 (東北大学大学院医工学研究科)

59-7 【一般演題】 リンパ行性薬剤送達法における薬剤浸透圧変化にともなう転移リンパ節の治療評価に関する研究

福村 凌一 (東北大学大学院医工学研究科)

2. 第 23 回奨励賞セッション 9:50-10:35

座長 福島県立医科大学医学部臨床医学講座 志村 浩己
東北大学大学院医工学研究科 小玉 哲也

60-1 【一般演題】 反射と散乱の振幅角度特性の差異を利用した胸椎の超音波描出の鮮銳化に関する検討

橋本 拓実 (東北大学大学院医工学研究科)

60-2 【一般演題】 先天性心疾患における体循環系心室の血流動態と機能の解明

五十嵐美羽 (東北大学大学院医学系研究科)

60-3 【一般演題】 胎児スクリーニング超音波検査の新規展開における問題点の検討

小野寺洋平 (秋田大学大学院医学系研究科)

3. 消化器 I 10:40-11:15

座長 山形県立中央病院消化器内科 鈴木 克典
福島県立医科大学附属病院検査部 幕田 倫子

60-4 【症例報告】 類上皮肉腫の多臓器転移と思われた 1 例

鈴木奈津子 (市立秋田総合病院)

60-5 【症例報告】 広範な肝動脈血栓を伴った孤立性腹腔動脈解離の 1 例

金 素子 (秋田赤十字病院)

60-6 【症例報告】 高アンモニア血症を伴った肝内門脈-肝静脈短絡の 2 例

大山 葉子 (秋田厚生医療センター)

60-7 【症例報告】 急激な心不全、うっ血肝状態を呈したクローン病の 1 例

渡部多佳子 (秋田赤十字病院)

4. 血管・乳腺 11:15-11:55

座長 東北大学大学院医学系研究科放射線診断学分野
秋田大学大学院医学系研究科循環器内科学講座 高瀬 圭
佐藤 和奏

- 60-8** 【一般演題】 脂質異常症における粥腫部位の弾性率の経時変化解析
土師 佑太 (東北大学大学院医工学研究科)
- 60-9** 【一般演題】 当院検査室における下肢静脈血栓存在部位の調査
秋山美沙子 (済生会宇都宮病院)
- 60-10** 【症例報告】 門脈腫瘍栓を形成した胸壁中皮腫の1例
加藤 大 (秋田赤十字病院)
- 60-11** 【一般演題】 診断まで時間を要した検診発見乳癌の超音波所見
若木暢々子 (秋田赤十字病院)

5. 循環器 15:15-16:35

座長 弘前大学医学部附属病院循環器腎臓内科 山田 雅大
山形大学医学部附属病院第一内科 田村 晴敏

- 60-12** 【一般演題】 心筋の微小速度計測を模擬した水槽実験系における
超音波送信ビーム形状と計測精度に関する検討
菅原 佳奈 (東北大学大学院医工学研究科)
- 60-13** 【一般演題】 心筋虚血後の数秒間における心室中隔壁内の速度波形の変化の超音波による検出
金井 浩 (東北大学大学院工学研究科)
- 60-14** 【症例報告】 トラスツズマブ投与中に心室細動を発症した抗がん剤治療関連心筋障害の1例
藤原美貴子 (市立秋田総合病院)
- 60-15** 【症例報告】 左室心筋緻密化障害に合併した急性心筋梗塞の1例
大高 麻子 (秋田大学大学院医学系研究科)
- 60-16** 【症例報告】 心腔内カテーテルエコーが診断に有用であった巨大右室内心臓血管腫の1例
勝田 祐子 (東北大学病院)
- 60-17** 【症例報告】 重症右室梗塞の1例
高橋 潤 (由利組合総合病院)
- 60-18** 【症例報告】 重症度判定に難渋した超高齢者の僧帽弁逆流症の1例
加賀谷健一 (東北医科大学病院)
- 60-19** 【症例報告】 二尖弁による奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症の治療方針決定のために
ドブタミン負荷心エコーが有用であった症例
田牧 真歩 (東北医科大学病院)
- 60-20** 【症例報告】 David手術後遠隔期に弁尖の離開による重症大動脈閉鎖不全症をきたした1例
永井 貴之 (山形大学医学部)

6. 消化器Ⅱ 16:35-17:45

座長 宮城県立がんセンター消化器内科 虹江 誠
秋田厚生医療センター臨床検査科 大山 葉子

60-21 【一般演題】 Deep Learning を用いた強力集束超音波加熱における組織変位の推定方法の初期検討

山本真理子 (東北大学大学院工学研究科)

60-22 【一般演題】 気泡援用超音波治療法における加熱効率向上を目指した超音波焦点走査方法の検討

上田 晃平 (東北大学大学院医工学研究科)

60-23 【症例報告】 Multiple primary malignancies (MPM) と思われる胆嚢癌の 4 例

長沼 裕子 (市立横手病院)

60-24 【症例報告】 胆嚢捻転の 1 例

高橋美由希 (大曲厚生医療センター)

60-25 【症例報告】 胆嚢穿孔の 1 例

松田あすか (秋田厚生医療センター)

60-26 【症例報告】 脾血腫と思われた 1 例

津谷明香里 (秋田赤十字病院)

60-27 【症例報告】 脾 SANT(Sclerosing angiomatous nodular transformation)と思われた 1 例

石田 秀明 (秋田赤十字病院)

60-28 【症例報告】 脾脂肪置換をきたした若年糖代謝異常の 2 例

草野 昌男 (くさのファミリー内科クリニック)

ランチョンセミナー

開催日時：令和2年9月13日（日）12:10～13:10

会 場：Web 開催

共 催：株式会社日立製作所

題 目：「人工弁置換術後症例における心エコー図検査」

講師 泉 知里（国立循環器病センター病院 心不全科）

座長 渡邊 哲（山形大学医学部附属病院 第一内科）

第 38 回講習会

(第 60 回学術集会併設)

日本超音波医学会東北地方会第 38 回講習会(第 60 回学術集会併設)を、下記の要領で開催いたします。講習会に出席された超音波専門医、工学フェロー、超音波検査士の方には **5 単位** の研修・業績単位が与えられます。

記

開催日時：令和 2 年 9 月 13 日（日）13:20～14:55

会 場：Web 開催

題 目 I：「 心不全診療に生かす心エコー 」

講師 岩野 弘幸（北海道大学大学院医学研究院 循環病態内科学）

座長 大原 貴裕（東北医科大学 地域医療学/総合診療科）

題 目 II：「 Onco-Cardiology における心エコー図検査 」

講師 後岡 広太郎（東北大学病院 循環器内科）

座長 熊谷 亜希子（岩手医科大学医学部 循環器内科分野）

参 加 費：1,000 円（学術集会参加費とは別途徴収いたします）

日本超音波医学会東北地方会運営要領

(平成 11 年 3 月 15 日制定)

(平成 18 年 9 月 24 日改正)

(平成 19 年 3 月 11 日改正)

(平成 24 年 3 月 11 日改正)

(平成 26 年 9 月 21 日改正)

(平成 27 年 3 月 8 日改正)

(平成 28 年 3 月 13 日改正)

(平成 30 年 10 月 14 日改正)

第1章 総 則

第1条 本会は日本超音波医学会東北地方会と称する。

- 2 本会の事務局は、福島市におく。
- 3 本会は日本超音波医学会の地方会として、超音波医学の進歩普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする。
- 4 本会に所属する地域は東北地方 6 県とする。

第2章 会 員

第2条 本会の会員は、在職者については勤務先が、非在職者については居住地が、学生会員については学校の所在地が、第1条4項の所属地域にある公益社団法人日本超音波医学会会員とする。

第3章 運営委員会および総会

第3条 本会は事業の円滑な運営を図るため、運営委員会を組織する。

- 2 運営委員会は、運営委員若干名（うち運営委員長 1 名）、幹事若干名および監事若干名で構成する。
- 3 運営委員会の議事は、運営委員の出席者の過半数をもって決定する。
- 4 運営委員会は、財務担当の運営委員を置き、本会の経理を行い、年度毎に会計報告を担当理事を通じて超音波医学会理事長に報告する。
- 5 幹事は運営委員長および運営委員の業務を補佐する。
- 6 監事は会計を監査する。
- 7 総会は年1回、運営委員長が召集し開催する。ただし運営委員長が必要と認めた場合には、臨時総会を開催することができる。
- 8 運営委員会および総会の議長は運営委員長がこれに当たる。
- 9 運営委員長は、準会員を運営委員会にオブザーバーとして出席させることができる。

第4章 運営委員、幹事および監事と運営委員長の選任および任期と年齢制限

第4条 次期運営委員、幹事および監事は、日本超音波医学会の正会員である本会員の中から運営委員長が推薦し、運営委員会の議を経て運営委員長が委嘱する。

- 2 運営委員長は、運営委員の互選により選任する。財務担当の運営委員は、運営委員長が委嘱する。
- 3 運営委員、幹事および監事の任期は2年間とし再任を妨げない。
- 4 任期が始まる年度の4月1日までに65歳に達する者は、運営委員、幹事および監事に就任できない。
- 5 任期中、1度も運営委員会へ出席しなかった者は、再任を認めない。

第5章 経 費

第5条 本会の経費は、日本超音波医学会よりの交付金および本会が主催する学術集会等の事業の参加費等によって支弁し、本会会員からの年会費の徴収は行わない。

- 2 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第6章 学術集会

第6条 本会は、原則として毎年2回学術集会を開催する。

- 2 学術集会の会長は、その都度運営委員会で選出し、学術集会の運営にあたる。
- 3 学術集会に関する事項は会誌「超音波医学」に広報し、学術集会における発表抄録（800字以内）は会誌に掲載することとする。
- 4 学術集会での発表者は、原則として公益社団法人日本超音波医学会会員でなければならぬ。
- 5 学術集会の会長の任期は担当の学術集会終了までとする。

第7章 地方会運営委員長会議

第7条 本会の運営委員長は、地方会担当理事および各地方会運営委員長によって組織される、地方会運営委員長会議の構成員となる。

第8章 補 則

第8条 本会の運営要領を変更するときは、運営委員会で議決し、会員に報告するものとする。

付 則

本会の事務局は福島県立医科大学医学部甲状腺内分泌学講座内、運営事務局は東北大学大学院工学研究科 電子工学専攻内におく。

本運営要領は、平成11年3月15日より施行する。
この要領の改正は、平成18年9月24日より施行する。
この要領の改正は、平成19年3月11日より施行する。
この要領の改正は、平成24年3月11日より施行する。
この要領の改正は、平成26年9月21日より施行する。
この要領の改正は、平成27年3月8日より施行する。
この要領の改正は、平成28年3月13日より施行する。
この要領の改正は、平成30年10月14日より施行する。

日本超音波医学会東北地方会 運営委員会
(任 期: 令和2年4月1日～令和4年3月31日)

運営委員長 :

鈴木 真一

特別顧問 :

田中 元直, 中鉢 憲賢, 棚橋 善克, 小野寺博義

運営委員 :

赤羽 武弘, 虹江 誠, 阿部 倫明, 荒川 元孝, 飯野 貴子, 石垣 泰,
鵜飼 克明, 宇野 篤, 大原 貴裕, 小山耕太郎, 金井 浩, 金谷 透,
鬼平 聰, 黒田 英克, 小玉 哲也, 小松田智也, 西條 芳文, 斎藤 英郎,
斎藤 昌利, 佐藤 和奏, 篠崎 育, 志村 浩己, 菅原 重生, 鈴木 克典,
高瀬 圭, 高瀬 信弥, 高野 真澄, 高橋 周, 田代 敦, 谷川原真吾,
千田 信之, 堤 誠司, 豊野 学朋, 中島 博行, 長沼 裕子, 西山 悟史,
橋本 哲司, 早瀬 敏幸, 伏見 悅子, 藤森 敬也, 星合 哲郎, 三浦 広志,
皆川 洋至, 矢作 浩一, 山田 雅大, 山本 宣幸, 吉澤 晋, 渡辺さち子,
渡邊 隆紀, 渡邊 哲, 渡邊 博之, 渡部 朋幸

オブザーバー(準会員) :

大山 葉子, 佐久間信子, 丹波 寛子, 藤田 雅史, 堀越 裕子, 幕田 倫子,
三木 俊, 渡邊 誠

財務担当運営委員 :

金井 浩

監 事 :

谷川原真吾, 千田 信之

幹 事 :

鵜飼 克明, 金井 浩, 小玉 哲也, 西條 芳文 谷川原真吾

奨励賞選考委員長 :

志村 浩己

プログラム委員会仙台 :

運営委員長, 会計監事, 幹事, 奨励賞選考委員長, 大会長, 次期大会長,
その他 運営委員長が認める者

災害時医療支援活動窓口担当者 :

山田 雅大(青森県) 小山耕太郎(岩手県) 黒田 英克(岩手県) 小松田智也(秋田県)
伏見 悅子(秋田県) ◎西條芳文(宮城県) 大原 貴裕(宮城県) 菅原 重生(山形県)
渡邊 哲(山形県) 鈴木 真一(福島県) 高野 真澄(福島県)

日本超音波医学会東北地方会 学術集会開催地一覧

| 会期 | 開催地 | 開催日 | 大会長 | 事務局 | 抄録掲載学会誌 | 演題数 |
|------|-----|------------|-------|-----------------|---------------------|-----|
| 第1回 | 仙台 | 1991年3月17日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.27, No. 7, 2000 | 20 |
| 第2回 | 仙台 | 9月22日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.19, No. 2, 1992 | 26 |
| 第3回 | 仙台 | 1992年3月15日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.19, No.11, 1992 | 32 |
| 第4回 | 仙台 | 9月20日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.19, No.12, 1992 | 31 |
| 第5回 | 仙台 | 1993年3月14日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.24, No. 1, 1997 | 35 |
| 第6回 | 秋田 | 9月26日 | 石田秀明 | 秋田大学第一内科 | Vol.21, No. 1, 1994 | 19 |
| 第7回 | 仙台 | 1994年3月20日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.27, No. 7, 2000 | 23 |
| 第8回 | 盛岡 | 9月10日 | 石川洋子 | 岩手県立中央病院 | Vol.24, No. 1, 1997 | 18 |
| 第9回 | 仙台 | 1995年3月19日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.24, No. 1, 1997 | 21 |
| 第10回 | 弘前 | 9月30日 | 須藤俊之 | 弘前大学第一内科 | Vol.24, No. 1, 1997 | 17 |
| 第11回 | 仙台 | 1996年3月17日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.24, No. 1, 1997 | 24 |
| 第12回 | 福島 | 9月15日 | 佐藤 章 | 福島県立医科大学産婦人科 | Vol.24, No. 1, 1997 | 17 |
| 第13回 | 仙台 | 1997年3月23日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.24, No. 1, 1997 | 27 |
| 第14回 | 山形 | 9月21日 | 友池仁暢 | 山形大学第一内科 | Vol.26, No. 6, 1999 | 22 |
| 第15回 | 仙台 | 1998年3月22日 | 田中元直 | 東北大学加齢医学研究所 | Vol.27, No. 7, 2000 | 22 |
| 第16回 | 秋田 | 9月27日 | 三浦 傳 | 秋田大学工学資源学部 | Vol.25, No.10, 1998 | 22 |
| 第17回 | 仙台 | 1999年3月14日 | 田中元直 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.26, No. 6, 1999 | 29 |
| 第18回 | 盛岡 | 9月19日 | 山田宏之 | 岩手県立久慈病院消化器内科 | Vol.27, No. 3, 2000 | 16 |
| 第19回 | 仙台 | 2000年3月12日 | 寺澤良夫 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.27, No. 7, 2000 | 37 |
| 第20回 | 弘前 | 9月17日 | 遠藤正章 | 弘前大学医学部第二外科 | Vol.27, No.10, 2000 | 18 |
| 第21回 | 仙台 | 2001年3月18日 | 仁田新一 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.28, No. 5, 2001 | 27 |
| 第22回 | 仙台 | 9月23日 | 林 仁守 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.28, No. 7, 2001 | 20 |
| 第23回 | 仙台 | 2002年3月17日 | 仁田桂子 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.29, No. 1, 2002 | 27 |
| 第24回 | 山形 | 9月21日 | 金谷 透 | 東北中央病院循環器内科 | Vol.29, No. 6, 2002 | 25 |
| 第25回 | 仙台 | 2003年3月9日 | 棚橋善克 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.30, No. 3, 2003 | 23 |
| 第26回 | 横手 | 9月21日 | 伏見悦子 | 平鹿総合病院第二内科 | Vol.30, No. 6, 2003 | 24 |
| 第27回 | 仙台 | 2004年3月21日 | 小岩喜郎 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.31, No. 3, 2004 | 30 |
| 第28回 | 福島 | 9月12日 | 佐藤 章 | 福島県立医科大学産婦人科 | Vol.32, No. 1, 2005 | 25 |
| 第29回 | 仙台 | 2005年3月20日 | 小野寺博義 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.32, No. 3, 2005 | 16 |
| 第30回 | 盛岡 | 9月25日 | 那須雅孝 | 岩手医科大学循環器医療センター | Vol.33, No. 2, 2006 | 20 |
| 第31回 | 仙台 | 2006年3月19日 | 沼田 功 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.33, No. 3, 2006 | 24 |
| 第32回 | 秋田 | 9月24日 | 小松田智也 | 秋田赤十字病院消化器科 | Vol.33, No. 6, 2006 | 17 |
| 第33回 | 仙台 | 2007年3月11日 | 千葉 裕 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.34, No. 4, 2007 | 29 |
| 第34回 | 仙台 | 9月30日 | 小笠原鉄郎 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.35, No. 1, 2008 | 31 |
| 第35回 | 仙台 | 2008年3月23日 | 阿部 真秀 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.35, No. 4, 2008 | 33 |
| 第36回 | 山形 | 9月21日 | 鵜飼 克明 | 公立置賜総合病院内科 | Vol.36, No. 2, 2009 | 26 |
| 第37回 | 仙台 | 2009年3月15日 | 谷川原真吾 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.36, No. 4, 2009 | 36 |
| 第38回 | 福島 | 9月 6日 | 大平 弘正 | 福島県立医科大学 | Vol.36, No. 6, 2009 | 33 |
| 第39回 | 仙台 | 2010年3月14日 | 明城 光三 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.37, No. 4, 2010 | 35 |
| 第40回 | 仙台 | 9月26日 | 千田 信之 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.38, No. 1, 2011 | 33 |

| 会期 | 開催地 | 開催日 | 大会長 | 事務局 | 抄録掲載学会誌 | 演題数 |
|--------|-----|-----------------|-------|---------------|---------------------|-----|
| 第 41 回 | 仙台 | 2011 年 3 月 13 日 | 金井 浩 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.38, No. 5, 2011 | 31 |
| 第 42 回 | 横手 | 9 月 11 日 | 長沼 裕子 | 市立横手病院 | Vol.38, No. 6, 2011 | 29 |
| 第 43 回 | 仙台 | 2012 年 3 月 11 日 | 西條 芳文 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.39, No. 3, 2012 | 36 |
| 第 44 回 | 福島 | 9 月 23 日 | 鈴木 真一 | 福島県立医科大学医学部 | Vol.40, No. 1, 2012 | 24 |
| 第 45 回 | 仙台 | 2013 年 3 月 10 日 | 室月 淳 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.40, No. 3, 2013 | 39 |
| 第 46 回 | 盛岡 | 9 月 8 日 | 小山耕太郎 | 岩手医科大学附属病院 | Vol.40, No. 6, 2013 | 35 |
| 第 47 回 | 仙台 | 2014 年 3 月 9 日 | 梅村晋一郎 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.41, No. 3, 2014 | 37 |
| 第 48 回 | 山形 | 9 月 21 日 | 鈴木 克典 | 山形県立中央病院 | Vol.42, No. 1, 2014 | 27 |
| 第 49 回 | 仙台 | 2015 年 3 月 8 日 | 菅原 重生 | 東北大学大学院工学研究科 | Vol.42, No. 3, 2015 | 35 |
| 第 50 回 | 青森 | 10 月 18 日 | 須貝 道博 | 弘前大学医学部附属病院 | Vol.43, No. 1, 2016 | 45 |
| 第 51 回 | 仙台 | 2016 年 3 月 13 日 | 小玉 哲也 | 東北大学大学院医工学研究科 | Vol.43, No. 4, 2016 | 31 |
| 第 52 回 | 秋田 | 9 月 11 日 | 鬼平 聰 | 秋田大学大学院医学系研究科 | Vol.43, No. 6, 2016 | 35 |
| 第 53 回 | 仙台 | 2017 年 3 月 12 日 | 高瀬 圭 | 東北大学大学院医学系研究科 | — | 33 |
| 第 54 回 | 福島 | 9 月 10 日 | 高野 真澄 | 福島県立医科大学 | — | 40 |
| 第 55 回 | 仙台 | 2018 年 3 月 11 日 | 篠崎 肇 | 仙台医療センター | — | 30 |
| 第 56 回 | 岩手 | 10 月 14 日 | 菊池 昭彦 | 岩手医科大学医学部 | — | 33 |
| 第 57 回 | 仙台 | 2019 年 3 月 3 日 | 渡辺 隆紀 | 仙台医療センター | — | 32 |
| 第 58 回 | 山形 | 9 月 29 日 | 渡邊 哲 | 山形大学医学部附属病院 | — | 34 |
| 第 59 回 | 仙台 | 2020 年 3 月 1 日 | 赤羽 武弘 | 石巻赤十字病院 | — | 30 |
| 第 60 回 | 秋田 | 9 月 13 日 | 飯野 貴子 | 秋田大学大学院医学系研究科 | — | 28 |
| 第 61 回 | 仙台 | 2021 年 3 月 7 日 | 虻江 誠 | 宮城県立がんセンター | | |
| 第 62 回 | 青森 | 9 月 19 日 | 橋本 哲司 | 弘前大学医学部産婦人科教室 | | |

次回以降の学術集会開催

| | | |
|---------------|------------|--|
| 第 61 回 | 仙台 | 2021 年 3 月 7 日 (日) |
| | 会場 | 仙台市中小企業活性化センター (アエル 5 階) (仙台市青葉区中央 1 丁目 3-1) |
| | 大会長 | 虻江 誠 (宮城県立がんセンター 消化器内科) |
| | 事務局 | 宮城県立がんセンター 消化器内科内 (宮城県名取市愛島塩手字野田山 47-1) Tel : 022-384-3151 |
| 第 62 回 | 青森 | 2021 年 9 月 19 日 (日) |
| | 会場 | ねぶたの家 ワ・ラッセ (青森市安方 1-1-1) |
| | 大会長 | 橋本 哲司 (青森市民病院 産婦人科) |
| | 事務局 | 弘前大学医学部産婦人科教室内 (弘前市在府町 5) Tel : 0172-39-5107 Fax : 0172-37-6842 |

日本超音波医学会 東北地方会 奨励賞 選考規程

平成 21 年 5 月 22 日制定
平成 22 年 3 月 14 日改正
平成 22 年 9 月 26 日改正
平成 24 年 9 月 23 日改正
平成 30 年 10 月 14 日改正

1. 目的

超音波医学に関する優れた研究発表を行い、将来超音波医学の発展への貢献が期待される東北地方在住の研究者の育成を目的とする。

2. 名称

本賞は、「日本超音波医学会 東北地方会 奨励賞」と称する。

3. 対象

以下のすべての条件を満たす者を対象にする。

- 一 本地方会学術集会奨励賞応募時、日本超音波医学会の会員（正会員、準会員、学生会員）であること。
- 二 所属施設または居住地が東北地方（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）であること。
- 三 本地方会学術集会開催時、満 45 歳以下あるいは大学（学部）卒業後 20 年以内であること。
- 四 正会員が行う症例報告は、地方会学術集会発表時、大学（学部）卒業後 10 年以内 35 歳以下であること。
- 五 本地方会学術集会の奨励賞に応募し、奨励賞審査会で発表を行うこと。
- 六 過去に日本超音波医学会奨励賞または本奨励賞を受賞していないこと。
- 七 過去に論文発表したもの、あるいは過去に他学会で受賞している場合、それらとの研究内容の差が明確であれば受賞の対象となる。

4. 選考手順

- 一 選考委員：選考委員は、本地方会運営委員長が選考し、運営委員会に報告するとともに本地方会 WEB に掲載する。
- 二 応募：応募者は演題応募の際に本賞に応募することを明示する。1 つの施設（病院の診療科、大学の教室または講座分野）からの応募は 1 演題に限定する。
- 三 書類選考：応募演題を選考委員が査読して 5 段階で評価（5 が最優秀）し、上位 6 演題内、かつ平均 3 評点以上の演題を、学術集会における奨励賞審査会での発表演題として選出する。不採択演題は一般演題とする。
- 四 演題発表の審査：本地方会学術集会の午前中に設定する本賞審査会で、候補演題の発表および質疑応答を行う（会員には公開）。選考委員から座長を選び（必要に応じて複数人可）、残りの選考委員は質疑応答に加わる。また、一般参加者からの質疑も可能な限り受けつける。発表終了後、出席した選考委員全員で審査を行い、学術集会毎に 3 名以内の授賞者を選考する。

5. 表彰

- 一 本賞の表彰は、原則として本地方会学術集会中に行い、賞状及び副賞（3 万円）を贈呈する。
- 二 本賞受賞者名、発表演題などは、本地方会 WEB 上に掲載する。

6. 改廃

この規程の改廃は、運営委員会の承認を得なければならない。

歴代の日本超音波医学会東北地方会奨励賞受賞者

| 会期 (学術集会) | 氏名 | 所属 | 分野 | 題目 | 会員種別 |
|---------------------------------|-------|------------------------------|------|--|------|
| 第 1 回 (第 38 回) 2009 年 9 月 | 柿坂 啓介 | 岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科 | 消化器 | 非観血的肝線維化診断における ARFI の有用性 | 正会員 |
| | 佐藤 貴子 | 秋田大学医学部第二内科 | 循環器 | 右室心尖部ペーシング施行例における左室壁運動障害の経時的評価 | 正会員 |
| | 二瓶 陽子 | 福島県立医科大学医学部附属病院 検査部 | 循環器 | 成人期に増悪を認めた大動脈弁下膜性狭窄の二例 | 準会員 |
| 第 2 回 (第 39 回) 2010 年 3 月 | 佐久間信子 | 福島県立医科大学附属病院 | 循環器 | Stretched foramen ovale を介し短絡血流増大を来たした Ebstein 奇形の一例 | 準会員 |
| | 末永香緒里 | 宮城県立こども病院 産科 | 産婦人科 | 胎児診断された脊髄膜瘤 21 例の超音波所見の検討 | 正会員 |
| | 田村 晴俊 | 山形大学医学部 | 循環器 | 経胸壁心エコーを用いた左心耳壁運動速度の低下は、脳梗塞症例における左心耳内血栓形成の有用な予測因子である | 正会員 |
| 第 3 回 (第 40 回) 2010 年 9 月 | 長谷川英之 | 東北大学大学院医工学研究科 | 基礎 | 超音波信号の位相偏移・変化率の同時推定によるラテラル変位計測 | 正会員 |
| | 佐藤ゆかり | 福島県立医科大学附属病院 検査部 | 循環器 | 感染性心内膜炎および敗血症性肺塞栓症を来たした右冠動脈瘤一冠静脈洞瘻の一例 | 準会員 |
| | 藤原美貴子 | 秋田大学大学院医学系研究科 | 循環器 | 疣状に類似した Amorphous Calcific Tumor の 2 症例 | 正会員 |
| 第 4 回 (第 41 回) 2011 年 3 月 | 宮下 進 | 宮城県立こども病院 産科/東北大学 大学院 医学系研究科 | 産婦人科 | 位相差トラッキングエコー法を応用した、血管径の微小変動計測による胎児循環の評価 | 正会員 |
| | 大友恵利子 | スズキ記念病院 臨床検査科 | 産婦人科 | 胎児期に発見された血管輪の一症例 | 準会員 |
| | 奥山 英伸 | 山形県立新庄病院 循環器科 | 循環器 | 心不全患者の心事故予測における入院時及び退院時 E/E 測定の有用性 | 正会員 |
| 第 5 回 (第 42 回) 2011 年 9 月 | 寺田 舞 | 秋田大学医学部大学院 循環器内科学 | 循環器 | 肺動脈弁の感染症内膜炎を合併した左室性単心室の一例 | 正会員 |
| | 佐藤 和奏 | 秋田大学大学院医学系研究科循環器内科・呼吸器内科 | 循環器 | ステロイド剤投与により心筋壁厚が劇的に変化した二次性心筋症の一例 | 正会員 |
| | 小澤 克典 | 宮城県立こども病院 産科 | 産婦人科 | 位相差トラッキング法を用いた胎児心機能の計測 | 正会員 |
| 第 6 回 (第 43 回) 2012 年 3 月 | 田渕 晴名 | 東北厚生年金病院 循環器センター | 循環器 | 左室内駆出流動態からみた心臓再同期療法有効性の機序 | 正会員 |
| | 佐藤 輝紀 | 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学 | 循環器 | 脳膜瘻を発症した体位依存性右左シャントの一例 | 正会員 |
| | 近江 晃樹 | 日本海総合病院 循環器内科 | 循環器 | 閉塞性肥大型心筋症様の病態を呈するファブリー病の一症例 | 正会員 |
| 第 7 回 (第 44 回) 2012 年 9 月 | 安田 俊 | 福島県立医科大学 産科婦人科学講座 | 産婦人科 | 当院における切迫早産と 'Amniotic Fluid Sludge' の関係に関する検討 (症例報告) | 正会員 |

| | | | | | |
|--------------------|-------------|-----------------------------------|------|---|------|
| | 高橋 広樹 | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 心臓内血流の非侵襲超音波イメージングを 目指した血球エコー成分強調に関する基礎 検討 | 正会員 |
| 第 8 回 (第 45 回) | 新保 麻衣 | 秋田大学大学院医学系 研究科 | 循環器 | 感染性心内膜炎の病理と類似した転移 性心臓腫瘍の一例 | 正会員 |
| 2013 年 3 月 | 小野寺美緒 | 岩手医科大学内科学講 座 | 消化器 | 急性肝炎における超音波組織弾性イメージ ングの有用性 -急性期の肝細胞壊死と炎症 評価に関する基礎的検討 | 正会員 |
| | 金澤 晃子 | 太田綜合病院附属太田 西ノ内病院 | 循環器 | 冠微小循環障害による乳頭筋不全が間歇的 重症僧帽弁逆流の原因と考えられた一例 | 正会員 |
| 第 9 回 (第 46 回) | 奈良 育美* | 秋田大学大学院医学系 研究科 | 循環器 | 腫瘍内出血により僧帽弁に嵌頓した左 房粘液腫の 1 例 | 正会員 |
| 2013 年 9 月 | 室本 仁 | 宮城県立こども病院 産科/東北大学大学院医 学系研究科 | 産婦人科 | 位相差トラッキング法を応用した胎児 脈波伝播速度計測および脈圧指標の導 入 | 正会員 |
| 第 10 回 (第 47 回) | 佐々木 翔也 * | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 平面波送信による超音波 RF 信号の非相関を 用いた強力集束超音波の組織凝固モニタリ ング | 学生会員 |
| 2014 年 3 月 | 高木 亮 | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 超音波治療ガイドとしての超音波イメージ ングにおける治療用超音波ノイズ除去 | 正会員 |
| 第 11 回 (第 48 回) | 高木 亮 | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 超音波治療ガイドとしての超音波イメージ ングにおける治療用超音波ノイズ除去 | 正会員 |
| 2014 年 9 月 | 堀江佐知子 * | 東北大学加齢医学研究 所 | 基礎 | ソノポレーションを利用した Vasohibin-1 遺 伝子導入による抗腫瘍効果の評価 | 正会員 |
| 2015 年 3 月 | 梅田 有里 | 秋田大学大学院医学系 研究科 | 循環器 | 成人例における拡張期肺動脈前方血流の臨 床的意義 | 正会員 |
| 第 13 回 (第 50 回) | 原田 文 | 宮城県立こども病院 | 産婦人科 | 胎児期の左心低形成症候群が脳血流および 頭部発育に与える影響 | 正会員 |
| 2015 年 10 月 | 阿部 珠美* | 岩手医科大学医学部 | 消化器 | 慢性肝疾患の線維化評価における Shear Wave Elastography の有用性 -M2BPGi の比較と複合指標の検証- | 正会員 |
| 2016 年 3 月 | 富安謙太郎 | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | キャビテーション気泡援用集束超音波治療 中リアルタイム周波数解析による治療領域 の制御 | 学生会員 |
| 第 14 回 (第 51 回) | 岩崎 亮祐 * | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 超音波加熱治療における治療前焦点領域可 視化の有効性検証 | 正会員 |
| 2016 年 9 月 | 藤原 裕大 | 岩手医科大学内科学講 座 | 消化器 | 慢性肝疾患における超音波減衰量イメ ージングを用いた非侵襲的肝脂肪定量化の試み | 正会員 |
| 第 15 回 (第 52 回) | 藤宮 剛 | 福島県立医科大学 | 循環器 | 重症大動脈弁狭窄症における術後収縮能改 善の予測 : global longitudinal strain 改善と術 前 MRI 遅延造影との関連 | 正会員 |
| 2017 年 9 月 | 池田 隼人 | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 気泡援用集束超音波治療における組織, キ ャビテーションおよび血流成分の分離 | 学生会員 |
| 第 18 回 (第 55 回) | 林 あかね | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 心筋虚血後の数秒間における収縮伝播速度 低下の超音波による検出 | 学生会員 |
| 2018 年 3 月 | 益子 大作 * | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 音響力学治療用集束超音波の焦点走査によ る活性酸素生成効率への影響 | 学生会員 |
| 第 19 回 (第 56 回) | 名取 徳子 | 岩手医科大学産婦人科 | 産婦人科 | Velocity vector imaging による胎児心機能解 析 | 正会員 |
| 2018 年 10 月 | 該当者なし | | | | |
| 第 20 回 (第 57 回) | | | | | |
| 2019 年 3 月 | | | | | |

| | | | | | |
|----------------------------------|-----------|-------------------|-----|--------------------------------------|-----|
| 第 21 回 (第 58 回 2019 年 9 月) | 新楯 涼 ＊ | 東北大学大学院医工学 研究科 | 基礎 | 細胞の鮮明なイメージングを可能にする高 分解能光音響顕微鏡の開発 | 正会員 |
| | 橋本 直士 | 山形大学医学部附属病 院 | 循環器 | 左房リモデリング指数は急性期脳梗塞患者 の有用な予後予測因子である | 正会員 |

* : 新人賞授賞者 (東北地方会)

〈 順序 : 発表順 〉

公益社団法人日本超音波医学会新人賞選考内規

(平成23年6月24日制定)
(平成24年3月30日改正)
(平成24年12月21日改正)
(平成25年4月1日改正)
(平成25年4月19日改正)
(平成25年11月29日改正)
(平成26年8月8日改正)
(平成27年11月27日改正)
(平成28年4月1日改正)
(平成28年11月25日改正)

1 目的・意義

新人の医師ならびに工学研究者を対象に、超音波医学に興味と関心を持つ機会を積極的に提供することにより、将来的に超音波医学の臨床ならびに基礎的研究の中心的役割を担う可能性のある有望な人材を発掘することが目的である。

なお、本事業は5年間の経過措置として行い、有効性が認められた場合には継続して行う。

2 名 称

本賞は、公益社団法人日本超音波医学会新人賞(以下「新人賞」という)と称する。

3 対 象

本賞は、各地方会学術集会において新人賞(公募)に応募し口頭発表された演題とし、症例報告、臨床研究、基礎研究いずれも可とする。

4 応募資格

一 本学会正会員、あるいは正会員になり得る資格を有すること。ただし、受賞候補者として選考された後、受賞の条件として入会を求める。応募は1人1演題とする。
二 医学系は学生又は学部卒業後5年以内、工学系は学生、大学院生又は大学院修士課程修了後5年以内とする(当該地方会での発表時点)。学生の場合は学生証、卒業の場合は卒業年度などを証明する文書の添付を求める。

三 既受賞者は除く。

5 新人賞選考委員会

一 各地方会運営委員長は、新人賞選考委員会(以下「選考委員会」という。)を各地方会に組織する。選考委員は、各地方会運営委員会で選ばれた、各領域(基礎・総合・循環器・消化器・体表・泌尿器・産婦人科・血管)の超音波専門医ならびに超音波工学フェローを含む複数の選考委員により構成される。
二 各地方会運営委員会は地方会学術集会の開催時に新人賞応募演題の公募を行う。公募に際しては、各地方の医育機関や関連学会地方会などに積極的に広報し、より多数の応募者を集めよう努める。

6 選 考

一 各地方会における選考委員会は地方会学術集会での発表時に採点を行い、最高得点取得者1名を新人賞受賞候補者として選ぶ。(同一年に地方会を複数回開催した場合においても、各年につき1名を選出する)ただし、選考対象者と直接利害関係を有する委員は選考に加わらない。
二 新人賞受賞候補者に対して各地方会事務局が受賞の意思および日本超音波医学会への入会などの所定の手続きを終えたことを確認し、領域別の新人賞応募演題数などと共に学会事務局に届け出る。
なお、受賞を希望しない場合には、点数順に次点を繰り上げる。

三 顕彰委員会は、選考委員会より提出された新人賞候補の中から新人賞を決定する。

7 表 彰

一 受賞者は受賞該当地方会学術集会後、直近に開催される日本超音波医学会学術集会において学術発表を行い、理事長が表彰する。
二 受賞者には賞状・副賞および日本超音波医学会学術集会参加のための交通費を贈呈する。
三 受賞者本人の学術集会参加費を免除する。
四 止むを得ない理由により受賞者が学術集会に参加できない場合には、必ず代理人が学術発表を行う。
ただし、受賞者が自ら発表しなかった場合には交通費は支給しない。

五 新人賞受賞者名、該当演題名などを会誌等に掲載する。

8 改 廃

この内規の改廃は、顕彰委員会、学術集会委員会あるいは地方会委員会の発議により規約担当理事の議を経て、理事会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 この内規は、平成23年6月24日から施行する。
- 2 この内規の改正は、平成24年3月30日から施行する。
- 3 この内規の改正は、平成24年12月21日から施行する。
- 4 この内規の改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 5 この内規の改正は、平成25年4月19日から施行する。
- 6 この内規の改正は、平成25年11月29日から施行する。
- 7 この内規の改正は、平成26年8月8日から施行する。
- 8 この内規の改正は、平成27年11月27日から施行する。
- 9 この内規の改正は、平成28年4月1日から施行する。
- 10 この内規の改正は、平成28年11月25日から施行する。

公益社団法人 日本超音波医学会新人賞授賞候補者 東北地方会選考規程

(平成 23 年 9 月 11 日制定)
(平成 24 年 9 月 23 日改正)
(平成 25 年 3 月 10 日改正)
(平成 25 年 4 月 1 日改正)
(平成 25 年 9 月 8 日改正)
(平成 26 年 3 月 9 日改正)
(平成 28 年 4 月 1 日改正)
(平成 30 年 10 月 14 日改正)

1. 目的

新人の医師ならびに工学研究者を対象に、超音波医学に興味と関心を持つ機会を積極的に提供することにより、将来的に超音波医学の臨床ならびに基礎的研究の中心的役割を担う可能性のある有望な人材を発掘することを目的とする。

本事業は 5 年間の経過措置として行い、有効性が認められた場合には継続して行う。

2. 名称

本賞は、公益社団法人日本超音波医学会新人賞(以下「新人賞」という)と称する。

3. 対象

新人賞授賞候補者(以下「授賞候補者」という)は、日本超音波医学会東北地方会学術集会において奨励賞に応募し口頭発表された演題の中で、本賞の応募資格を満たすものとする。症例報告、臨床研究、基礎研究いずれも可とする。

4. 応募資格

- 一 本学会正会員、あるいは正会員になり得る資格を有すること。但し、授賞候補者として選考された後、授賞の条件として入会を求める。応募は 1 人 1 演題とする。
- 二 所属施設または居住地が東北地方(青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県)であること。
- 三 医学系は学生または学部卒業後 5 年以内、工学系は学生、大学院生または大学院修士課程修了後 5 年以内とする(本地方会での発表時)。学生の場合は学生証、卒業の場合は卒業年度などを証明する文書の添付を求める。
- 四 本賞および東北地方会奨励賞の既受賞者は除く。

5. 新人賞授賞候補者選考委員会(以下「選考委員会」という)

- 一 選考委員会: 選考委員は東北地方会運営委員長が指名し、各領域(基礎・総合・循環

器・消化器・体表・泌尿器・産婦人科・血管)の超音波専門医ならびに超音波工学フレーラーを含む複数の選考委員により構成される。

二 運営委員会は地方会学術集会の奨励賞公募時に、新人賞の応募資格を満たすものについては、奨励賞と同時に授賞候補者の対象となることを公示する。公募に際しては、医育機関や関連学会地方会などに積極的に広報し、より多数の応募者を集めるよう努める。

6. 選考

一 選考委員会は春および秋の東北地方会学術集会での発表時に対象者について採点を行い、秋の学術集会において2つの学術集会の候補者の中から最高得点取得者1名を授賞候補者として選ぶ。ただし、選考対象と直接利害関係を有する委員は選考に加わらない。

二 授賞候補者に対して地方会事務局が受賞の意思および日本超音波医学会への入会などの所定の手続きを終えたことを確認し、領域別の新人賞応募演題数などと共に学会事務局に届け出る。なお、受賞を希望しない場合には、点数順に次点を繰り上げる。

三 公益社団法人日本超音波医学会の顕彰委員会において、授賞候補者の適格性を確認した上で新人賞授賞者(以下「授賞者」という)を決定する。

6. 表彰

一 授賞者は授賞該当地方会学術集会後、直近に開催される日本超音波医学会学術集会(以下「全国大会」という)において学術発表を行い、理事長が表彰する。

二 授賞者には公益社団法人日本超音波医学会が賞状及び副賞(金五万円)および全国大会参加のための交通費を贈呈する。

三 授賞者本人の全国大会参加費を免除する。

四 止むを得ない理由により授賞者が全国大会に参加できない場合には、必ず代理人が学術発表を行う。但し、授賞者が自ら発表しなかった場合には交通費は支給しない。

7. 改廃

この内規の改廃は、運営委員会の承認を得なければならない。

公益社団法人日本超音波医学会 東北地方会 功績賞 選考内規

(平成 23 年 9 月 11 日制定)

(平成 25 年 4 月 1 日改正)

(平成 28 年 4 月 1 日改正)

1. 目 的

超音波医学に関する特別の功績があり、日本超音波医学会 東北地方会の発展に寄与した者の顕賞を目的とする。

2. 名 称

本賞は、「日本超音波医学会 東北地方会 功績賞」と称する。

3. 対 象

以下のすべての条件を満たす者を対象にする。

- 一 超音波医学に関する学術又は関連事業に関し、特別の功績があり、その功績が顕著である者
- 二 長年にわたり日本超音波医学会の会員（正会員、準会員）であること
- 三 本賞選考時に所属施設または居住地が東北地方（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）にあること
- 四 過去に本学会 特別学会賞、松尾賞を受賞していないこと
- 五 本学会 名誉会員、功労会員でないこと

4. 選 考

- 一 選考委員会：選考委員は東北地方会運営委員長が指名し、運営委員会に報告する。
- 二 選考委員会は、運営委員より推薦された対象者について選考作業を行い、日本超音波医学会 東北地方会 功績賞 受賞候補者を決定し、運営委員会へ推薦する。

5. 決 定

東北地方会運営委員会は、選考委員会の推薦に基づき、日本超音波医学会 東北地方会 功績賞の授賞に値する者を決定する。

6. 表 彰

- 一 日本超音波医学会 東北地方会 功績賞に関する表彰は、原則として東北地方会学術集会中に行い、賞状および副賞を贈呈する。
- 二 本賞受賞者名、授賞に至った業績などは、本地方会 WEB 上に掲載する。

7. 改 廃

この内規の改廃は、運営委員会の承認を得なければならない。

日本超音波医学会東北地方会功績賞受賞者

| 受賞年月 | 氏名 | 所属 | 会員種別 |
|---------|-------|----------------|------|
| 2011年9月 | 吉田 泰夫 | 秋田大学工学部電気電子工学科 | 正会員 |

協賛社一覧

○ランチョンセミナー協賛共催

- ・株式会社日立製作所

○広告協賛企業

- ・アステラス製薬株式会社
- ・大塚製薬株式会社
- ・株式会社日立製作所
- ・キヤノンメディカルシステムズ株式会社
- ・興和株式会社
- ・第一三共株式会社
- ・帝人ヘルスケア株式会社
- ・テスコ株式会社
- ・日本新薬株式会社
- ・日本ベーリングーイングルハイム株式会社
- ・日本メドトロニック株式会社
- ・日本ライフライン株式会社
- ・バイエル薬品株式会社
- ・バイオトロニックジャパン株式会社
- ・ファイザー株式会社
- ・フクダ電子北東北販売株式会社
- ・ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社
- ・ヤンセンファーマ株式会社
- ・GEヘルスケア・ジャパン株式会社

○協賛

- ・テスコ株式会社

(50 音順 敬称略)

学術集会開催に際し、ご協力賜りました各企業様に厚く感謝申し上げます。

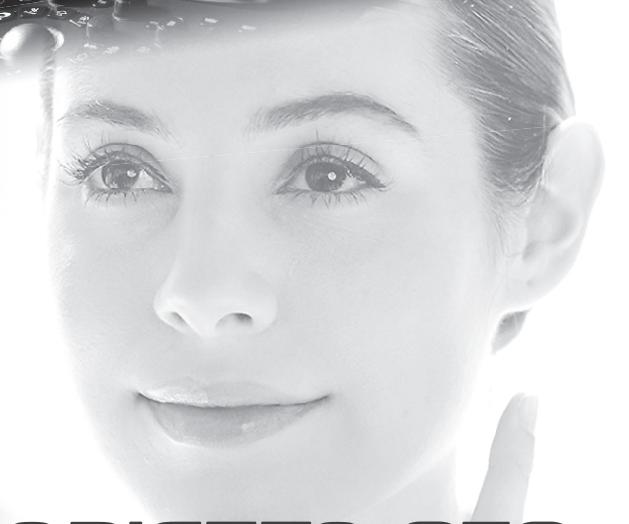
HITACHI
Inspire the Next

高品位な超音波診断に、ふたつの新しい顔

LISENDO 880

音が描き出す循環の深層

「美しい」基本画質。心臓の拍動を正確に捉える。血流を視覚化する。3Dイメージをタイムリーに表示する。すべてはより確かな循環器科の診断・治療のため。必要なあらゆる機能が、今革新的な進化を遂げる。



ARIETTA 850

研ぎ澄まして、音を、みる。

「画質」「ワークフロー」「アプリケーション」超音波に求められる3つの課題に正面から取り組み、めざしたのは超音波診断装置の理想形。幅広い臨床領域の要求に柔軟に対応しながら、妥協のない診断価値を提供します。

販売名：超音波診断装置 ALOKA ARIETTA 850 医療機器認証番号：第228ABBZX00147000号 ALOKA ARIETTA 850はARIETTA 850と呼称します。
販売名：超音波診断装置 ALOKA LISENDO 880 医療機器認証番号：第228ABBZX00092000号 ALOKA LISENDO 880はLISENDO 880と呼称します。

Canon



Aprio a550 CUS-AA550 認証番号:230ABBZX00019000
Aprio a450 CUS-AA450 認証番号:230ABBZX00018000

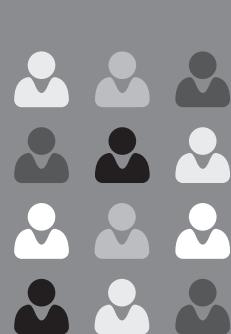


キヤノンが誇るハイエンド超音波シリーズ“**Aprio**”
その歴史を受け継ぎ、進化を遂げ、
Aprioを超える**Aprio**がここに誕生しました。
Advanced Technologyを余すことなく搭載し、
洗練された流れるような操作感とともに、
新たな理想のかたちに融合しました。
“A”クラスが実現する最高のパフォーマンス **BEYOND Aprio!**

Aprio a550 Aprio a450 DEBUT!

Aprio

a-series



PERSONALIZED CRT

「今、この時」に必要なペーシングを。

Medtronicの目指す Personalized CRT

CRT患者のニーズは常に変化しています

生活する中で、心臓のリズム・レート・伝導状態は常に変化し、
時に心房細動が起きることもあります

「今、その時に」必要なペーシングを

刻一刻と変わる患者さんの「今」に向き合うために

Medtronicの挑戦は続きます

日本メドトロニック株式会社
CRHF事業部
108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

Medtronic

Boston
Scientific
Advancing science for life™

RESONATE™ X4 CRT-D CRT-D

SmartCRT™



smart solutions | PROVEN TO LAST

販売名：RESONATE CRT-Dシリーズ 販売名：アキュイティ X4
医療機器承認番号：22900BZX00087000 医療機器承認番号：22600BZX00341000

製品の詳細に関しては添付文書等をご確認いただくか、弊社営業担当へご確認ください。
© 2019 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.
All trademarks are the property of their respective owners.

製造販売元：
ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp
PSST20191011-1002

総販売元：
日本ライフライン株式会社
〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
CRM事業部
<http://www.jll.co.jp>

JLL Japan Lifeline



選択的直接作用型第Xa因子阻害剤

**イグザレルト[®]錠 10mg 15mg
細粒分包 10mg 15mg**

Xarelto[®] (リバーロキサバン)

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 [文献請求先及び問い合わせ先]

バイエル薬品株式会社

大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001

<https://byl.bayer.co.jp/>

[コンタクトセンター]

0120-106-398

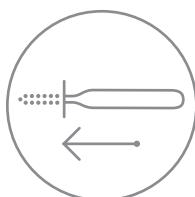
<受付時間> 9:00~17:30(土日祝日・当社休日を除く)

BIOMONITOR III

3T&1.5T 条件付きMRI対応植込み型心電図記録計

Cardiac Monitoring. Made Clearer.

BIOMONITOR III は、
ユニークなロングベクトルデザインにより、
診断に役立つ情報を提供することができる
植込み型心電図記録計です。



One-Step Injection.
1ステップで植込み可能



High Quality Signal.
Easy Rhythm Classification.
長い電極間隔による精度の高いセンシング



Automated Home Monitoring.
全自动デイリーモニタリングによる安心・安全な患者管理



製造販売業者
バイオトロニックジャパン株式会社

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー
Tel.03-3473-7471 Fax.03-3473-7472

外国製造業者
BIOTRONIK SE & Co. KG (ドイツ連邦共和国)

販売名:バイオモニター3
医療機器承認番号:30100BZX00153000

 **BIOTRONIK**
excellence for life

小さな高性能 超音波画像診断装置 PaoLus+™

先進の高性能デジタルビームフォーマー技術をコンパクトに凝縮。

High Qualityな画質と優れたポータビリティーで、
様々なシーンでのエコー検査に的確に対応します。



High Quality

周波数コントロールを自動で行い、
常に最適な状態に保ちます。

Compact Design

小型軽量のコンパクト設計。
ポータブルとして持ち運びもできます。

Easy Operation

モニタ表示や操作パネルに日本語を採用し、操作もスムーズに。

超音波画像診断装置

UF-760AG+ *PaoLus+*

医療機器認証番号：223ADBZX00025000

販売名：超音波画像診断装置 UF-760AG

管理医療機器 特定保守管理医療機器

フクダグループは超音波関連製品をはじめ、
様々な検査・治療機器を取り扱っております。

フクダ電子北東北販売株式会社 本社 〒010-0955 秋田県秋田市山王中島町8-10 TEL.(018)862-2991代

フクダ電子株式会社 お客様窓口 (03)5802-6600 受付時間：月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00

フクダ電子

検索

●弘前営業所 〒036-8084 弘前市高田2-3-1

TEL. (0172)27-4331代

●盛岡営業所 〒020-0051 盛岡市下太田下川原12-1 TEL. (019)656-2200代

●八戸営業所 〒031-0813 八戸市大字新井田字西平1-67 TEL. (0178)30-2911代

私が私に選ぶなら

経口FXa阻害剤

処方箋医薬品注 薬価基準収載

エリキュー^ス錠 2.5mg Eliquis[®] (アピキサバン錠) 5mg

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

【警告】

【全効能共通】

本剤の投与により出血が発現し、重篤な出血の場合には、死亡に至るおそれがある。本剤の使用にあたっては、出血の危険性を考慮し、本剤投与の適否を慎重に判断すること。本剤による出血リスクを正確に評価できる指標は確立されておらず、本剤の抗凝固作用を中和する薬剤はないため、本剤投与中は、血液凝固に関する検査値のみならず、出血や貧血等の徴候を十分に観察すること。これらの徴候が認められた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。(「禁忌」、「用法及び用量に関連する使用上の注意」、「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「過量投与」の項参照)

【静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制】
脊椎・硬膜外麻酔あるいは腰椎穿刺等との併用により、穿刺部位に血腫が生じ、神経の圧迫による麻痺があらわれるおそれがある。静脈血栓塞栓症を発症した患者が、硬膜外カテーテル留置中、もしくは脊椎・硬膜外麻酔又は腰椎穿刺後日の浅い場合は、本剤の投与を控えること。

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

【全効能共通】

(1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
(2) 臨床的に問題となる出血症状のある患者[出血を助長するおそれがある。](「重要な基本的注意」の項参照)
(3) 血液凝固異常及び臨床的に重要な出血リスクを有する肝疾患者[出血の危険性が増大するおそれがある。]

【非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制】腎不全(クレアチニクリアランス(CLcr) 15mL/min未満)の患者[使用経験がない。]

【静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制】重度の腎障害(CLcr 30mL/min未満)の患者[使用経験が少ない。]

効能又は効果

1. 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
2. 静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制

【効能又は効果に関連する使用上の注意】

【静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制】

1) ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な肺血栓塞栓症患者又は血栓溶解剤の使用や肺塞栓摘出術が必要な肺血栓塞栓症患者における有効性及び安全性は確立していないため、これらの患者に対してヘパリンの代替療法として本剤を投与しないこと。2) 下大静脈フィルターが留置された患者における本剤の使用経験が少ないため、これらの患者に投与する場合には、リスクとベネフィットを十分考慮すること。(「臨床成績」の項参照)

用法及び用量

1. 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制

通常、成人にはアピキサバンとして1回5mgを1日2回経口投与する。
なお、年齢、体重、腎機能に応じて、アピキサバンとして1回2.5mg 1日2回投与へ減量する。

2. 静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制

通常、成人にはアピキサバンとして1回10mgを1日2回、7日間経口投与した後、1回5mgを1日2回経口投与する。

【用法及び用量に関連する使用上の注意】

【非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制】
次の基準の2つ以上に該当する患者は、出血のリスクが高く、本剤の血中濃度が上昇するおそれがあるため、1回2.5mg 1日2回経口投与する。(「臨床成績」の項参照)

・80歳以上(「高齢者への投与」の項参照)

・体重60kg以下

・血清クレアチニン1.5mg/dL以上

【静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制】

(1) 特に静脈血栓塞栓症発症後の初期7日間の1回10mg 1日2回投与中は、出血のリスクに十分注意すること。(2) 本剤の投与期間については、症例ごとの静脈血栓塞栓症の再発リスク及び出血リスクを評価した上で決定し、漫然と継続投与しないこと。【国内臨床試験において、本剤を6ヵ月以上投与した経験はない。】

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1) 出血のリスクが高い患者(先天性あるいは後天性出血性疾患、活動性の潰瘍性消化管疾患、細菌性心内膜炎、血小板減少症、血小板疾患、活動性悪性腫瘍、出血性脳卒中の既往、コントロール不良の重度の高血圧症、脳・脊髄・眼科領域の最近の手術歴等を有する患者)【出血の危

その他の使用上の注意につきましては、添付文書をご参照下さい。また、添付文書の改訂にご留意下さい。

製造 ブリストル・マイヤーズ スクイブ 株式会社

販売元 東京都新宿区西新宿6-5-1

資料請求先: メディカル情報部 TEL.0120-093-507

販売元 ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

資料請求先: 製品情報センター

※※2017年4月改訂(第8版)

※2016年7月改訂



笑顔あふれる将来設計を支える。

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人[「妊娠、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。]
- (2) 重度の肝障害のある患者[使用経験がない。また、類薬において重篤な肝障害の報告がある。]
- (3) 強いCYP3A4誘導剤(リファンピシン、セイヨウオトギリソウ含有食品、カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、リファブチン)を投与中の患者[「相互作用」の項参照。]
- (4) 本剤及び本剤の成分に過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧症

【効能・効果に関する使用上の注意】

1. WHO機能分類クラスIにおける有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の使用にあたっては、最新の治療ガイドラインを参考に投与の要否を検討すること。

【用法・用量】

通常、成人には、マシテンタンとして10mgを1日1回経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 投与開始前の肝酵素(AST, ALT)値のいずれか又は両方が基準値上限の3倍を超える患者[使用経験がない。「重要な基本的注意」の項参照。] (2) 透析中の患者[使用経験がない。] (3) 重度の貧血のある患者[「重要な基本的注意」の項参照。] (4) 低血圧の患者[「重要な基本的注意」の項参照。]

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の投与に際しては、以下について説明及び指導し、妊娠する可能性のある女性には本剤投与開始前及び投与中は1ヵ月に1回妊娠検査を実施すること。「禁忌」及び「妊娠、産婦、授乳婦等への投与」の項参照。] (2) 妊娠中に本剤を服用した場合の胎児に及ぼす危険性 2) 投与中及び投与中止後1ヵ月間は確実な避妊法を用いるとともに、妊娠した場合若しくはその疑いがある場合には、医師に直ちに連絡すること (2)他のエンドセリン受容体拮抗薬において肝酵素値上昇が認められているため、肝機能検査を必ず投与開始前に行い、投与中は、必要に応じて肝機能検査を定期的に実施すること。本剤投与中に臨床的に顕著にAST, ALT値が上昇した場合、これら肝酵素値上昇に伴いビリルビン値が基準値上限の2倍を超える場合、又はこれら肝酵素値上昇に伴い黄疸などの肝障害の徴候を伴う場合には、本剤投与を中止すること。「慎重投与」の項参照。] (3) 本剤の投与によりヘモグロビン濃度を定期的に測定することが望ましい。「慎重投与」の項参照。] (4) 肺静脈閉塞性疾患患者において、血管拡張薬を使用した場合に肺水腫の発現が報告されているため、本剤を投与しないことが望ましい。また、本剤の投与により肺水腫の徴候がみられた場合は肺静脈閉塞性疾患の可能性を考慮すること。肺静脈閉塞性疾患が疑われた場合には、本剤の投与を中止すること。 (5) 重度の腎障害のある患者では、本剤の投与により低血圧及び貧血が起こる可能性があるので、血圧及びヘ

モグロビンの測定を考慮すること。(6) 本剤は血管拡張作用を有するため、本剤の投与に際しては、血管拡張作用により患者が有害な影響を受ける可能性がある状態(降圧剤投与中、安静時低血圧、血液量減少、重度の左室流出路閉塞、自律神経機能障害等)にあるのかを十分検討すること。「慎重投与」の項参照。]

3. 相互作用

本剤は主にCYP3A4により代謝される。

(1)併用禁忌(併用しないこと)

強いCYP3A4誘導剤[リファンピシン(リファジン)、セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品、カルバマゼピン(テグレトール)、フェニトイン(アレビアチン)、フェノバルビタール(フェノバール)、リファブチン(ミコブチニン)]

(2)併用注意(併用に注意すること)

強いCYP3A4阻害剤[ケトコナゾール*、HIV感染症治療薬(リトナビル等)]

CYP3A4誘導剤[エファビレンツ、モダフィニル、ルフィナミド等]

*経口剤、注射剤は国内未発売

4. 副作用

国内臨床試験において、安全性解析対象症例30例中21例(70.0%)41件に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛9例(30.0%)、潮紅7例(23.3%)、貧血、浮腫及び末梢性浮腫が各2例(6.7%)であった(申請時)。海外臨床試験において、安全性解析対象症例^{注1)}242例中56例(23.1%)に副作用が認められた。主な副作用は、頭痛12例(5.0%)、貧血9例(3.7%)、浮動性めまい及び末梢性浮腫が各6例(2.5%)であった(申請時)。

(1) 重大な副作用

1) 貧血(4.0%)^{注2)}: 貧血、ヘモグロビン減少が起こる可能性があるので、定期的な検査及び十分な観察を行い、異常が認められた場合はその程度及び臨床症状に応じて、投与中止など適切な処置をとること。「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照。]

注1) 海外臨床試験成績の10mg投与群より算出した。

注2) 海外及び国内臨床試験成績の10mg投与群より算出した。

● その他の使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。



劇薬・処方箋医薬品(注意一医師等の処方箋により使用すること)

エンドセリン受容体拮抗薬

薬価基準収載

オプスニット[®]錠10mg

一般名:マシテンタン/Macitentan

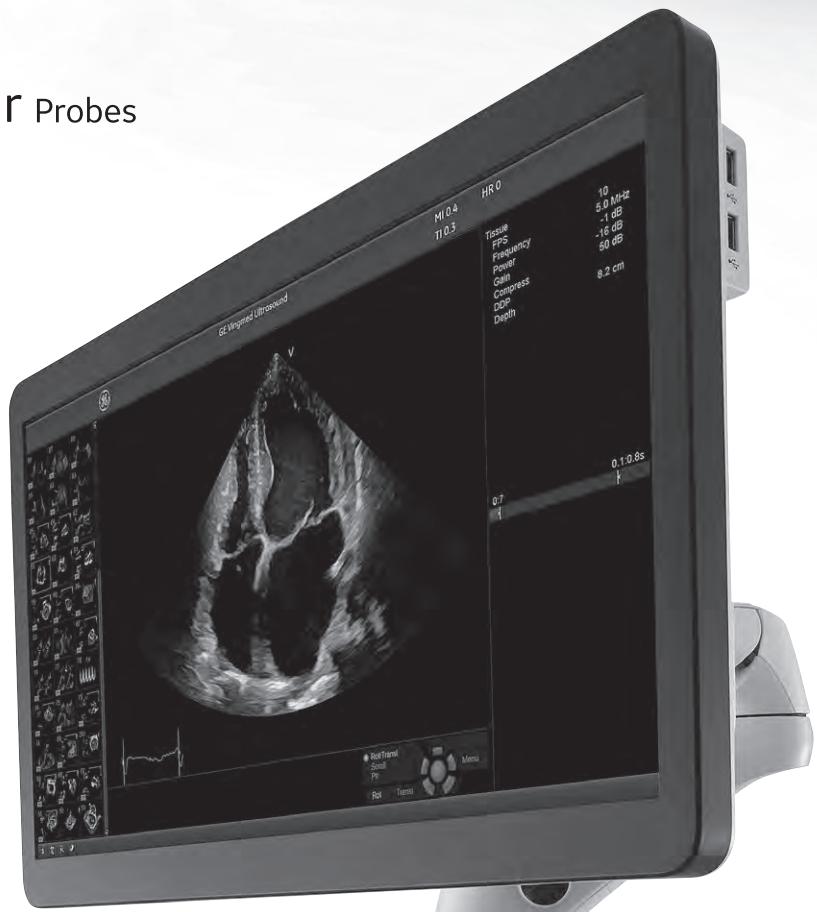
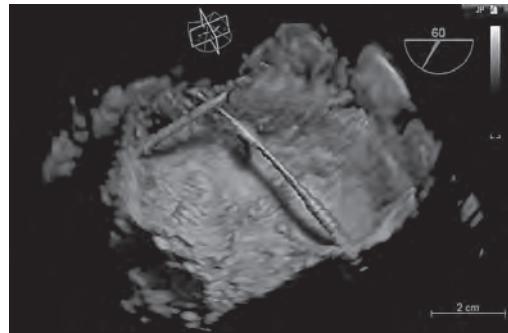


Vivid E95

powered by cSound

cSound \times OLED \times XDclear Probes

cSoundにより飛躍的向上を遂げた
イメージクオリティで診断をサポート



GEヘルスケア・ジャパン株式会社
カスタマーコールセンター 0120-202-021

gehealthcare.co.jp

製造販売:GEヘルスケア・ジャパン株式会社
販売名称:汎用超音波画像診断装置 Vivid E95
医療機器認証番号:227ABBZX00035000号
※Vivid E90は上記医療機器の類型です。

JB64803JA



まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。



明日は変えられる。

www.astellas.com/jp/



アステラス製薬株式会社

医療関連事業

疾病的診断から治療までを担う



ニュートラシティカルズ関連事業
日々の健康維持・増進をサポートする

両輪で身体全体を考える

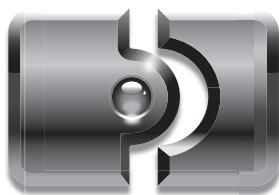
世界の人々の健康に貢献する
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

https://www.otsuka.co.jp/



Otsuka 大塚製薬



高脂血症治療剤
パルモディア[®]錠 0.1mg
PARMODIA[®] TAB. 0.1mg (ペマフィブラー[®]錠)

薬価基準収載

処方箋医薬品: 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)



興和株式会社

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14



HMG-CoA還元酵素阻害剤 薬価基準収載 HMG-CoA還元酵素阻害剤 薬価基準収載

日本薬局方 ピタバスタチンカルシウム錠 ピタバスタチンカルシウム水和物口腔内崩壊錠

リバロ錠 1mg
2mg
4mg

リバロOD錠 1mg
2mg
4mg

処方箋医薬品: 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)



興和株式会社

東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

提携

日産化学株式会社

2020年6月作成



経口FXa阻害剤

【薬価基準収載】

リクシアナ[®]錠・OD錠
15・30・60mg

一般名:エドキサバントシリ酸塩水和物

処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。



製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先を含む)

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2020年1月作成



酸素濃縮装置(テレメトリー式)パルスオキシメータ受信機
ハイサンソ i
認証番号:230ADBZX00107000

在宅酸素療法



酸素濃縮装置(呼吸同調式レギュレータ)
ハイサンソ ポータブル αII
認証番号:227ADBZX00202000



汎用人工呼吸器(二相式気道陽圧ユニット)
NIPネーザル®V-E(タイプ名)
承認番号:22300BZX00433000

NPPV療法

患者さんの Quality of Life の
向上がティジンの理念です。

健保適用

TEIJIN



加熱式加湿器
F&P AIRVO™ 2
販売名: フロージェネレーターAirvo
承認番号:22500BZX00417000

ハイフローセラピー



加熱式加湿器
F&P myAIRVO™ 2
販売名: フロージェネレーターmyAirvo
承認番号:22800BZX00186000



持続的自動気道陽圧ユニット(CPAP装置)
スリーブメイト10
承認番号:22700BZI00027000

CPAP療法

ご使用前に添付文書および取扱説明書をよく読み、正しくお使いください。

帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

QOL002-TB-2002



TESCO
TECHNICAL SERVICE CORPORATION

よりよい医療へ

知識、技術を磨き、最適な製品と情報を提供し続けます

東証一部上場企業グループ

テスコ株式会社

WIN A BETTER QUALITY OF LIFE
WIN PARTNERS Group

NO BORDER

世界のあらゆるメディカルニーズに応え、
患者さんやご家族の未来を輝かせたい。
私たちは今日も、新薬開発に挑んでいます。

すべてを超えて
くすりの未来へ

健康未来、創ります
 日本新薬

Value through Innovation



人々のより良い健康のために

ベーリンガーインゲルハイムは、株式を公開しない企業形態の特色を生かし、
長期的な視点で、医薬品の研究開発、製造、販売を中心に事業を
世界に展開している製薬企業です。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

本社／〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
<https://www.boehringer-ingelheim.jp>

 Boehringer
Ingelheim



ファイザー株式会社は、NPO法人日本視覚障害者柔道連盟のオフィシャルパートナーです



Breakthroughs that change patients' lives™
患者さんの生活を大きく変えるブレークスルーを生みだす

ファイザーは研究開発型の医薬品企業として
患者さんのQOL向上と健康寿命増進に貢献します。

ファイザー www.pfizer.co.jp